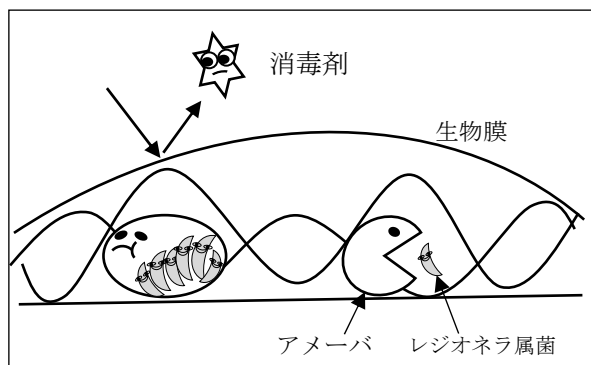


# 高齢者福祉施設におけるレジオネラ対策



レジオネラ症は、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル（細かい飛沫）を吸入することで発症する感染症です。特に高齢者など抵抗力・免疫力の低い人は罹りやすい傾向にあります。重症化傾向の強い肺炎や、熱性疾患等の症状があり、国内においても、高齢者福祉施設におけるレジオネラ感染症例が報告されています。



〈図1〉

なお、レジオネラ属菌は土壌や河川など自然界に存在しているものの、数は少ないと考えられています。しかし、循環式浴槽水や冷却塔水などレジオネラ属菌の生息に適した人工的な環境水に入り込むと、そこに生息するアメーバ等がレジオネラ属菌を捕食し、レジオネラ属菌はそこで死滅せずに消毒剤等から守られながら爆発的に増殖します（図1）。

設備内に定着する生物膜には、アメーバとレジオネラ属菌が存在していることから、レジオネラ属菌の抑制は、生物膜の除去と形成抑制が重要です。特に水の滞留し易い場所は、残留塩素が消失してしまうため生物膜が形成され易く、注意が必要です。レジオネラ属菌の侵入を防ぐことは難しく、侵入する前提での対策が必要となります。

しかしながら、高齢者福祉施設における入浴設備においては、環境衛生関係法令の適用を受けていないため、衛生設備の維持管理等について法的な義務がありません。施設の利用者は、一般的に感染症への抵抗力が弱い高齢者の方など、健康上の配慮を必要とする方も多いため、他の建築物と比較してより高い衛生管理が必要と考えられます。

そこで、高齢者福祉施設等におけるレジオネラ属菌による汚染の対応については、「レジオネラ症を予防するために必要な措置に関する技術上の指針」や「高齢者介護施設における感染対策マニュアル」において、適切な設備の維持管理が求められています。特に生物膜が形成され易く、レジオネラ属菌の検出率の高い循環式浴槽に対する下記の内容等について、当社 発行の[小冊子](#)を別途作成しています。そちらも日々の維持管理に是非ご活用ください。

- ・レジオネラ属菌はどこからやってくるのか？
- ・レジオネラ属菌はどのように増えるのか？
- ・設備のどこが、なぜ危ないのか？
- ・設備ごとにどのように管理するのか？

詳しくは、当社 分析担当者 **阪口、貝森**（フリーダイヤル0120-01-2590）までお問い合わせ下さい。

■ 事業内容 ■

- ① 環境管理に伴う調査・測定・化学分析
- ② ビル管理に伴う水質検査・空気環境測定
- ③ 水道法第 20 条に基づく水質検査
- ④ 製品開発・品質管理に伴う化学分析
- ⑤ アスベスト分析
- ⑥ 絶縁油中の PCB 分析
- ⑦ 労働衛生管理に伴う作業環境測定
- ⑧ 土壌汚染対策法に基づく土壌汚染状況調査